

防災への心構え新たに

野辺地

八戸学院野辺地西高(橋場保人校長)は25日、岩手県山田町で実施している震災復興事業の報告会を同校で開催した。同町の佐藤信逸町長を招いた講演会も行われ、全校生徒が防災への心構えを新たにした。

同校では、2013年度から東日本大震災の復興事業として、山田町で町民に楽しんでもらうイベントを開催

野辺地西高 震災復興事業 岩手・山田町長招き報告会



防災の重要性について語る岩手県山田町の佐藤信逸町長

している。今年も9月15、16日に熱気球クラブとものづくりクラブの生徒6人が訪問し、気球搭乗会や手作りゲームセンターを実施。多くの子どもたちが笑顔で楽しんでいったという。

報告会では、動画などでイベントの様子を紹介。現地を訪れた3年の甲田龍丞(りゅうじゆう)さんが「町民の皆さんが訪れてくれて、私たちも楽しい時間を過ごせた。ただ、町にはまだ復興できていない部分もあり、震災を風化させてはいけないと感じたと訴えた。

この後、佐藤町長が「山田町の復興計画と、その進捗状況」と題して講演。震災の爪痕や復興への決意、防災対策の必要性などを語った。佐藤町長は取材に「子どもたちを楽しませてくれることに感謝したくて学校を初めて訪れた。未来を担う若者が防災の意識をしっかりと持ってくれるとうれしい」と話していた。

(藤村大地)